

☆えほん☆

「ぞうきばやしのすもうたいかい」

広野多珂子／作 廣野研一／絵

福音館書店 E3ヒロ

はやし き かぶ うえ むし
林の切り株の上では虫たちのすもう大会。カナブン対タマムシ、ダンゴムシ対カマキリ・・・いろいろな虫が強さをきそいあっている。おましかねの大一番はカブトムシとクワガタ対決。さあ勝つのはどっち？



あたらしい本のコーナー

「300年まえから伝わる とびきりおいしいデザート」

エミリー・ジェンキンス／文 ソフィー・ブラッコール／絵

横山和江／訳 あすなろ書房 E4フラ

生クリームをあわだてて、ブラックベリーはつぶしてこして、さとうをいれたら生クリームとまぜあわせる。300年まえ、200年まえ、100年まえ、そして現代。くらしはかわっても、なめると、おいしい！のはかわらない。

「すばこ」

キム・ファン／文 イ・スンウォン／絵
ほるぷ出版 E2スハ

むかしドイツに、鳥がだいすきなベルレプシュだんしゃくというひとがいた。たくさんの鳥が森にきてくれるようにとだんしゃくがつくった鳥の家が、すばこのはじまり。いまから100年くらいまえのことだ。



「ネコツメのよる」

町田尚子／作 WAVE出版 E3マチ

「おや？」ある日ねこはおもう。こんやかもしれない。そのよる、もりにあつまってきた、ねこ、ねこ、ねこ。「ついにこのひがきましたね」「いよいよですね」ねこたちがまっているものは、いったいなに？

☆よみもの☆

「霧の中の白い犬」

アン・ブース／著 杉田七重／訳 橋賢亀／絵
あかね書房 932フウ

ずっと犬が飼いたかったジェシーはシェパードのスノーウィが来て大喜びだ。でも、大好きなおばあちゃんはその子犬が来てから何にかにおびえるようになり、認知症を発症してしまった。それはおばあちゃんが子供のころのできごとと関係しているようで……。——教えておばあちゃん、子供のころに何があったの。



「蒼とイルカと彫刻家」

長崎夏海／作 佐藤真紀子／絵
薬師寺一彦／協力

佼成出版社 931ナカ

小学1年生の夏、プールでおぼれかけたなら1頭のイルカが蒼の心の中すみだした。なんとか形にしたくて図書館でイルカを調べたり、消しゴムをイルカの形に彫ったり。ある日、水のしずくの置物と彫刻家のカズさんに出会った蒼は……。

「リトル・ダンサー」

田村理江／作 君野可代子／絵
国土社 931タム

4年生の英太は、クラスでは目立たない存在。母親に付き合っ行ってバレエ教室で、バレエを始めることになる。友達のこと、気になる女の子のこと……「輝く」ってなんだろう？



「らくごでことわざ笑辞典」

齊藤洋／作 陣崎草子／絵
偕成社 931サイ

西東亭ひろし丸の「らくごで笑」シリーズの第3弾は“ことわざ”にまつわるらくご。お話の主人公は一郎くん。「二階から目ぐすり」ということわざの意味を知るために、おじいちゃんの家のパランダから目薬を一滴、落としてみたのだけど……。

☆しらべもののほん☆

「干したから・・・」

森枝卓士／写真・文 フレーベル館 59

野菜やくだもの、お肉や魚。生でも食べられるけれど、干したらかたくなり、軽くなり、くさりにくくなる。干し柿のように甘くなり、ちがうおいしさがうまれるものもある。干したものは世界じゅうで見つかる、自然のめぐみと人の工夫のけっしょうだ。



「まるごとごくり！」

シニア・ジェイムソン／再話 アーノルド・ローベル／絵

小宮由／訳 大日本図書 922

子どものいないおじいさんとおばあさん。土で男の子をつくり、かまに入れてやいてみると土ぐうができた。土ぐうはうごきだし、「はらへった！」と村じゅうの牛乳とパンをたべつくした。さらにおじいさんとおばあさんものみこんで……。



「シュバル」

岡谷公二／文 山根秀信／絵
福音館書店 52

100年ほど前、人々は雑誌などで見る外国の景色にあこがれていた。シュバルもその一人。でも、シュバルはただあこがれていただけじゃない。郵便配達をしながら、石をみつめて、自分が夢に見た宮殿を作ることにしたんだ。



「あやとり学」

野口廣／著 こどもくらぶ／編 今人舎 79

たった一本のひもで、いつでもどこでも手軽に遊べる知的な遊び、あやとり。日本の女の子の伝承遊び、と知られているけれど、世界中のいろんな国で古くから楽しまれているんだ。